

総合臨床医の育成へ

明海大が認定資格で授与式

明海大学は、高度な専門的知識と技術を持つ総合臨床歯科医師の育成を目的に開設した歯科総合医育成コース認定医制度で、基礎的臨床教育を修了した「Excellent Clinician」の資格称号授与式を4日、東京・新宿の明海大学・朝日大学歯科医師生涯研修センターで開いた。



白石氏(左)と中島氏

同認定医制度は、同大が2014年度から開設したもので、第一段階の称号「Excellent Clinician」と、より実践的な臨床教育を修了した者に与えられる称号「Distinguished Clinician」と、アドバンスコースを修了して口腔機能や全身的な評価ができる者に与えられる称号「Master Clinician」の三つからなる。

「Excellent Clinician」は、クリニカルベーシック18コース、ステップアップ9コース全てを受講した人が症例発表、筆記試験、面接を経て取得できる資格称号。今回取得したのは、2005年に日本大学歯学部を卒業後、局部床義歯の医局に7年在籍し、現在は千葉県で勤務医をしているという白石康博氏。

歯科総合医評価機構長で同大歯学部長の中島裕氏は授与式のあいさつで、歯科大学での教育内容がめまぐるしく変化している状況を踏まえて、「大学を卒業し、国試に合格すればデンティストになれるが、十分な臨床能力を備えたクリニシャンであることは別物」と生涯研修の重要性を強調。「資格は取得が目的ではなく、患者に生かしてこそその資格」として、日々の臨床のレベルアップに期待を示した。